

高校生が阿佐ヶ谷駅で花壇づくり

14日、都立農芸高校（今川3-25-1）の園芸科学科の1年生16名が、JR阿佐ヶ谷駅の北口・南口ロータリーの一角にある花壇に、丹精込めて育ててきたテランセラやクフィア、ペゴニアを植えました。

この取り組みは、平成13年に花壇づくりに関する協定を、杉並区と都立農芸高校で交わしたのをきっかけに行われているもので、毎年9月に晩夏の花を、11月下旬には葉ボタンやビオラなどの冬の花を植えて花壇づくりを行っています。

今日、花壇に植えられた苗も、生徒たちが5月中旬にさし芽をし、夏前にポット苗に植え替えをするなど、丹精込めて育ててきたものです。今年は、夏に雨の日が多かった影響で、苗の生育はあまりよくないそうですが、それでも600株ほどを用意することができました。また、この時期は台風シーズンで、昨年・一昨年は荒天で花壇づくりができなかったので、2年ぶりの晩夏の花壇づくりとなりました。

14日午後1時30分、都立農芸高校園芸科学科1年生の16名が、阿佐ヶ谷駅の北口・南口に分かれて、花壇づくりを行いました。苗は、テランセラやクフィア、ペゴニアで、2時間ほどで植えつけました。これらの花は、11月下旬の次の植え替えまで、駅利用者などの目を楽しませることになります。

都立農芸高校は、明治33（1900）年に創立した都内最古の農業高校で、7.3万㎡に及ぶ広い敷地を有しています。その中で、園芸科学科の生徒は、草花や野菜の栽培技術などを学んでいます。授業の中で、生産された野菜や花の苗などは、毎週月曜日・水曜日・金曜日の13:00～15:00で校内の売店で販売されていて、大変な人気となっています。



【問い合わせ先】

杉並土木事務所

TEL：3315-4178